

Asia Indicators

発表日: 2021年8月13日(金)

インド、3ヶ月ぶりにインフレ率は目標域に収束 (Asia Weekly(8/7~8/13))

～生活必需品を中心にインフレ圧力はくすぶる一方、感染爆発による経済活動への影響は早くも一巡～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
8/7(土)	(中国)7月輸出(前年比)	+19.3%	+20.8%	+32.2%
	7月輸入(前年比)	+28.1%	+33.0%	+36.7%
8/9(月)	(中国)7月消費者物価(前年比)	+1.0%	+0.8%	+1.1%
	7月生産者物価(前年比)	+9.0%	+8.8%	+8.8%
	(マレーシア)6月鉱工業生産(前年比)	+1.4%	▲0.3%	+26.1%
	(台湾)7月輸出(前年比)	+34.7%	+29.5%	+35.1%
	7月輸入(前年比)	+41.0%	+35.0%	+42.3%
8/10(火)	(フィリピン)4-6月実質 GDP(前年比)	+11.8%	+10.0%	▲3.9%
8/11(水)	(韓国)7月失業率(季調済)	3.3%	3.7%	3.7%
8/12(木)	(フィリピン)金融政策委員会(翌日物借入金利)	2.00%	2.00%	2.00%
	(インド)7月消費者物価(前年比)	+5.59%	+5.78%	+6.26%
	6月鉱工業生産(前年比)	+13.6%	+13.5%	+28.6%
8/13(金)	(マレーシア)4-6月実質 GDP(前年比)	+16.1%	+14.3%	▲0.5%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[インド]～インフレ率は3ヶ月ぶりに目標域に回帰するも、生活必需品を中心にインフレ圧力はくすぶる展開～

12日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+5.59%となり、前月(同+6.26%)から鈍化して3ヶ月ぶりに中銀(インド準備銀行)が定めるインフレ目標(4±2%)の範囲内に収まっている。ただし、前月比は+0.74%と前月(同+0.56%)から上昇ペースが加速しており、国際原油価格の上昇を受けてエネルギー価格は上昇傾向を強める動きが続いているほか、生鮮品を中心とする食料品価格も上昇が続くなど、生活必需品に物価上昇圧力がくすぶっていることが影響している。なお、当研究所が試算した食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は伸びが若干鈍化しているものの、引き続き高水準で推移している。変異株による新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染爆発の動きが一服していることで経済活動の再開の動きが広がるなか、エネルギー価格の上昇を受けた輸送コストの上振れを反映して幅広く財価格が押し上げられているほか、サービス物価も上昇の動きを強めるなど、幅広くインフレ圧力がくすぶる状況が続いている。

なお、同日に発表された6月の鉱工業生産は前年同月比+13.6%となり、前月(同+28.6%)から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期

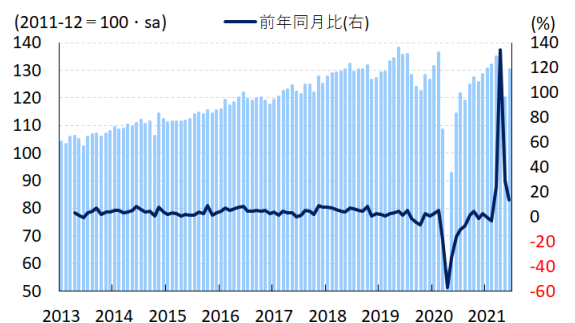
的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れしている。新型コロナウイルスの感染爆発の動きが一服したことで経済活動の再開の動きが広がるなか、消費財のみならず、中間財や資本財などあらゆる財で生産底入れの動きが広がりを見せており、感染爆発の影響が早くも一巡しつつあると捉えられる。

図1 IN インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 IN 鉱工業生産の推移

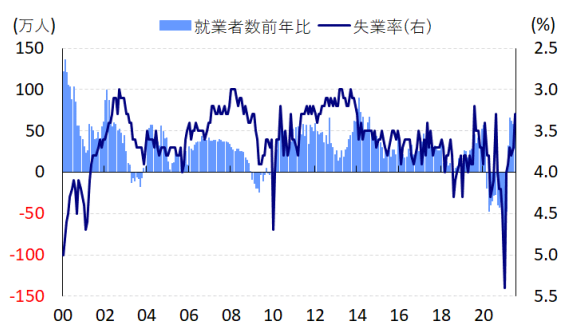


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成, 季調値は当社試算

[韓国]～失業率は11ヶ月ぶりの水準に改善も、労働市場からの退出が続くなど厳しい状況は変わらない模様～

11日に発表された7月の失業率(季調済)は3.3%となり、前月(3.7%)から0.4pt改善して11ヶ月ぶりの水準となった。失業者数は前月比▲11.9万人と前月(同▲2.4万人)から2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向を強めるなど一段と頭打ちしている様子がうかがえる。年代別でも、30代でわずかに拡大していることを除いてすべての年代で減少しており、60代以上の高齢層のみならず、10代及び20代といった若年層でも減少している。一方の雇用者数は前月比+2.0万人と前月(同+1.8万人)から6ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れしている。雇用形態別では、非正規雇用を中心に調整圧力がくすぶる動きがみられる一方、正規雇用の拡大の動きが全体を押し上げている様子がうかがえる。ただし、年代別では50代や60代以上といった高齢層で拡大しているものの、若年層や働き盛り世代では減少するなど、年代ごとに対照的な動きがみられる。なお、労働力人口は前月比▲1.0万人と前月(同▲0.1万人)と2ヶ月連続で減少するなど底入れの動きに一服感が出ており、年代別では50代で拡大しているものの、若年層や働き盛り世代の減少が全体を下押ししており、雇用環境の厳しさを受けて労働市場からの退出の動きが強まっている様子がうかがえる。事実、労働参加率は62.7%と前月(63.0%)から0.3pt低下しており、表面的な数字は改善しているものの、その内容は厳しい状況が続いていると判断出来る。

図3 KR 雇用環境の推移

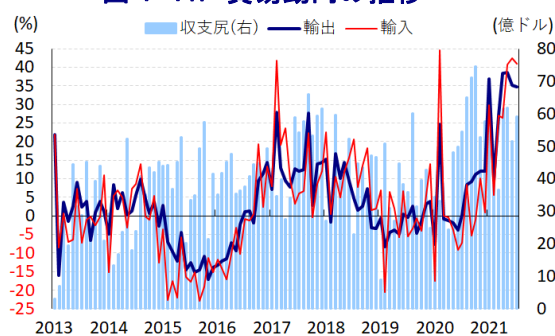


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～主要国を中心とする世界経済の回復に半導体需要の旺盛さも重なり、輸出は引き続き堅調に推移～

9日に発表された7月の輸出額は前年同月比+34.7%となり、前月（同+35.1%）からわずかに伸びが鈍化した。ただし、前月比は+2.4%と前月（同▲2.3%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調は引き続き拡大傾向で推移しており、主要国を中心とする世界経済の回復を追い風に底入れの動きが続いている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国本土向けは底入れの動きに一服感が出ているほか、ASEANなどアジア新興国向けも鈍化する動きをみせる一方、米国やEU（欧州連合）、日本など先進国向けの堅調さが輸出全体を押し上げている。財別でも、主力の輸出財である半導体など電子部品関連のほか、電気機械関連や機械製品関連などを中心に堅調な動きが続いている。一方の輸入額は前年同月比+41.0%となり、前月（同+42.3%）から伸びが鈍化している。前月比は▲0.1%と前月（同▲0.3%）から2ヶ月連続で減少するなど頭打ちの兆しがうかがえるものの、中期的な基調は引き続き拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。輸出の堅調さを反映して素材及び部材関連の輸入は底堅い動きをみせているほか、国際商品市況の上昇の動きも輸入額を押し上げる一方、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染拡大を受けた行動制限の再強化の動きを反映して消費財関連の輸入に下押し圧力が掛かっていることが輸入の重石となっている。結果、貿易収支は+59.01億ドルと前月（L 51.45億ドル）から黒字幅が拡大している。

図4 TW 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。